

広島大学学術情報リポジトリ

Hiroshima University Institutional Repository

Title	研究室紹介 布川弘先生 日本近代都市社会学
Author(s)	『飛翔』編集部,
Citation	拓蹊 , 3 : 98 - 100
Issue Date	2020-05-30
DOI	
Self DOI	
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00049183
Right	
Relation	



研究室紹介 布川弘先生 日本近代都市社会学

『飛翔』編集部

原載：広島大学総合科学部公式広報誌『飛翔』第91号、2017年3月号

Q. 先生がなさっている研究は都市学やヒロシマ学などの平和学とお伺いしました。現在、一番力を入れている研究は？

一番力を入れているものの一つは、広島に被爆の社会文化史的な意味ですね。

もう一つは広島に戦前、原爆が投下される前の明治、大正時代からの歴史の見直し。なぜかという本を書かなきゃいけないから、それに今集中しようかと。

Q. 明治、大正の広島を研究することはどれくらい役に立つのですか？

なぜ広島が原爆投下の目標地になったかという、人口30万人の大きな都市だから実験にちょうど良かったというのが正しい理由。当時広島は軍都だって意識がすごく強くて、戦前の歴史は全部軍都に塗り固められ、否定されていた。実際には例えば江戸時代、300年近く城下町の歴史も、色々な文化があって、色々な社会があったけど、それが全部軍都だって言って、覆いかぶさってしまう傾向があった。それをまず何とかしたい。逆にそれがわかると原爆で何を失ったかがわかる。すごく大事なものがたくさんあったはずなんです。人命もちろんですけど、広島が300年以上かけて作ってきたものが、一瞬にして無くなっているわけだから、実際にはすごくたくさんのもがあったはず。それをできるだけ掘り起こしたいと思っている。だから、軍の都市であるというイメージを、もちろんその側面はあるんだけど、それだけじゃない広島っていうものを、もう一回明らかにして、ひいては原爆の投下の日になにが失われたかっていう観点から、もう一度見直してみようかなって。それは一般的には、第二次世界大戦のとき空襲が非常に激しかったんだけど、空襲で何が失われたかという、もうちょっと広い問題にもかかる。で、今もいろいろ空襲がやられています。空襲っていうのは、例えば何となく我々はイスラム国なんかを封じるために必要な手段だと思っているけど、それによって失われるものって、ものすごく大きいわけ。それで、その問題を警告するというか、その問題に光をあてる意味でもすごく重要な研究だなあと。

Q. 例えば、町で行われてきた行事だったり、その町に300年間の間で残されてきた建物であったり、あとは文化的な蓄積みたいなものがあると思いますが、先生はそういった分野にも興味があるのですか？

もともとぼくは、社会史という分野なんです。社会史というのは、高校や中学で日本史やるよね。そこではだいたい政治の話が軸でしょ。政治と経済。政治と経済じゃなくて、例えば、人と人との関係とか、そのなかでどういう生活が営まれてきたとか、そこで、その生活にかかってどういう文化があったかというのをやるのが僕の関心なんです。あまり教科書に載っていない、普通の一般の人がどういう生活をしてきたか、どういう人間関係を作っていたか。空爆、原爆は、このようなものを根こそぎ失うんですよ。人と人の関係とか暮らしの中の文化とか全部まさになくなっちゃうでしょ。だからものすごく破壊的な行為だって。建物だけではないんだよね。まあある種、地震なんかにもいえるかもしれないけど。

Q. それで、研究の一番のメインなんです。その研究の魅力っていうのは先生にとってどんなものですか。

例えば、ドラマで豊臣秀吉とか織田信長っていう有名人が取り上げられているけど、歴史上の人物の 99%は有名人じゃない人なんだよね。その人たちがやっぱり実際には歴史を作っているわけだから、実際に歴史を作っている人に焦点を当てるのが本筋じゃないかと。だけど、なんでそれをやらないかという、記録が残ってないんだよね。で、書状とか日記とか、そういうさかのぼればさかのぼるほど文字をかける人がすごく限られてくるから、文字資料として残らない。だけど、残らないから不要かっていうとそうじゃなくて、残らないもののなかに、すごく大事なものがたくさんあったりする。で、文字で残っているものなんて、ほんのごくわずかで、氷山のごく上の方しかない。下の方は全然わからない。で、僕は、こっちの方が大事だと思っている。もちろん、これから考えなくちゃいけないんだけど。氷山の上から考えるのも大事だけどもね。

Q. 先生の趣味は何ですか？

文系の人ってというのはだいたい、本を読むのが趣味というか仕事のようなものだから、大体、1日のうちもう6時間とか7時間は本と向き合ってるわけで。それで、すぐは読まないけど、まあこれ使いたいな、というのは買ったりしてるんで、やっぱりだんだんこう増えてきてしまって……書齋は猫に占領されてしまってるから（笑）、書庫がほしいかな。

趣味は、一つは音楽。研究室の棚にCDが置いてあるんだけど、9割がクラシックだと思うんだよね。バッハ、モーツァルト、ベートーベンって並べてるんだけど、これが主に聞く音楽かな。

あとはマンガだね。プラモデルも作って、研究室の上のやつは海軍の爆撃機なんだけど、平和をやりながら軍艦と戦闘機を……平和の先生だと思ってここに来る人もびっくりだ（笑）。

あとは、僕映画館に行くの苦手なんで、こうやってDVDとか買って観てるんだけど。

あとは旅行かな。あ、大事な趣味を言うのを忘れてた、お笑いなんだよお笑い。クラシック音楽とお笑いなんだよ。アメトークとまっちゃんのすべらない話とかね。ずっと晩飯とか食いながらアメトーク見てんの。

Q. 学生時代にまったく違った勉強をされていましたがよね。先生が学生時代に学んだことで、次の研究に発展させていくために役に立ったものは何ですか？

学生時代に、神戸の街、特に観光とかで一切取り上げられないところに連れて行ってもらったことかな。電気屋のバイトで、お父さんの仕事を手伝っていたもんだから。それがやっぱり大きいかな。街に出てその人たちの暮らしぶりとか、実際に仕事やってる人を見ることになるので、それでずいぶん物事の見方が変わったよ。こういう風な生き方をしてる人もいるんだと思って。大学で学ぶこともすごく大事だと思うんだけど、大学で学んでるよりもどっちが大事だって言えないくらいに、大きいことだよ。それがなきゃ今研究してないと思う。

Q. 最後に、総合科学部の学生に一言お願いします！

僕が言えることはやっぱり、いろんな体験をして社会を見てほしいと思う。その点バイトは大事だと思う。僕学生時代いろんな種類のバイトやったんだけど、家の取り壊しとかスイカの選別とか。もちろんカテキョもやったけど、そこでいろんな人と出会う。だから僕としてはすごく楽しかったしいろいろ教わったと思う。

大学も大事なんだけど、もうちょっと広げて考えてみてほしい。だから西条はちょっと寂しいかなって思いますね。

あまり学生とこんな話をするものもないんだよね、それこそ『飛翔』ぐらい。学生と話す機会が必要だと思う。ターム制とか学部改編とか、総科は新しいことをいろいろやっているけど、やはり学生の意見も聞くべきだと思う。そうしないと学生が混乱すると思うんだよね。

Q. 激動の広島大学の中で私たちは生きていかなきゃいけないんですね…

激動っていうか激怒だよ（笑）。